

証券アナリスト(CMA®)

経済・証券・財務分析など金融全般の知識を仕事用にパッケージした資格。定性的な情報を定量的に置き換える技術は、一般企業でも広く役立つ

言葉を数字に置き換えて表すアナリストのスキルを身につけたい

岩屋さんが、証券アナリストという資格の存在を知ったのは、これまで接してこなかった投資家に対して広報を行うIR室に異動してから。仕事でアナリストレポートを読み、アナリストの視点とロジックに興味を持った。何を学べばアナリストのような視点で物事を捉えられるよう



「証券アナリストの資格を取得したのは社内で私が最初でした」と岩屋さん。研究者が開発したものを商品化するべく、資料に目を通し戦略を練る。

になるのか。それを知りたいと思っていたときに「証券アナリストの勉強が役立つ」という情報を得る。早速、金融業界で働く友人などに問い合わせ、証券アナリストのテキストを見せてもらった。
「テキストは、経済・証券・財務分析などの大事な部分が、ビジネス用にパッケージされている印象。いかにも役立ちそうだと感じました」
証券アナリストの知識は金融全般の知識を網羅。多くの場面で役立つ

すぐにテキストを取り寄せたものの、実際に勉強を始めたのは1年後のこと。「ボリュームが大きすぎて、仕事をしながら勉強できるか自信がありませんでした。でも、このスキルは身につけたいと思い、資格取得までの期間を最大2年と決めて、勉

強を開始しました。」
勉強は毎日やることを心掛けた。まとまった時間が取れない日でも、1日1〜2問は証券分析の計算問題を解いた。「1問20分程度なので空き時間にできます。試験では電卓を叩くスピードも合否に関係してくるので、同じ関数電卓を自宅用、会社用、携帯用と用意したり、大事な公式はノートに書き写して持ち歩いたりしました」と話す岩屋さんは、努力の甲斐あって、計画通り2年で試験に合格。検定会員に認定された。現在、再生医療事業推進室で、新

岩屋 薫さん (38歳)

富士フィルム(株)再生医療事業推進室で勤務。IR室で証券アナリストの存在を知り、そのスキルを身につけたいと一念発起。11年検定会員に認定。



仕事で使えるさまざまなフレームが詰まっているから活用範囲も広い。これまでと違った尺度が身につく、仕事の幅がぐんと広がりました。

規事業に携わっている岩屋さん。研究者が研究・開発したものをビジネスにしたところからなるのか、その事業価値を査定するのが仕事だ。「証券アナリストの資格を取得し、

言葉で表す定性的な情報をデータなど定量的な情報に置き換えることができるようになりました。物事を筋道立てて考える力も身についたと実感。一生モノの資格です」

リクルート『稼げる資格 2015年上半期版』

どんな資格

経済や産業の動向などを把握し、証券分析やポートフォリオ(投資配分)の設計、投資価格を算出。投資の助言や投資運用のサービスを提供する。金融機関に限らず、企業の調査部や財務・IR部門など活躍の場が広がっている。

ここがおススメ

編集長の注目ポイント

証券アナリストは、株式や債券などさまざまな証券への投資に関する専門家。資格試験では、国内や世界の経済動向と個別の企業の経営状況を同時に分析するための知識や理論、スキルを幅広く問われます。

そのため、証券会社や銀行などの金融機関や企業の調査部、財務部門はもちろん、法人を顧客とする営業部門まで幅広く活用することができるのが特色。試験に合格し、3年以上の実務経験があれば協会の検定会員(CMA®)として認定されます。

どう学ぶ?

日本証券アナリスト協会が実施する通信講座を受講する。受講期間は、1次レベル・2次レベルともに8ヵ月。合格までには、最短でも2年の勉強が必要だ。ほかに初歩・入門向きの「基礎講座」もある。

どう稼ぐ?

アナリストはもとより、金融機関等に所属するファンド・マネージャー、投資アドバイザーなど、専門知識に特化した職種が増え、活躍の場は拡大。一般企業の財務、IR部門で働く人がいる一方、評論家として活躍する人もいる。